

つかさ会 会報

Vol. 23
2008. 3 月発行
つかさ会事務局

つかさ会会員の皆様、こんにちは。

2月11日午前中には、日本糖尿病協会岐阜県支部の代表者会が行われました。つかさ会からは2名の役員が出席されました。ご苦労様でした。午後の『岐阜県糖尿病セミナー』には、たくさんの会員の方が参加していただきました。一般の方も入れて462名と盛況でした。

さて、6月8日には大垣市にて、日本糖尿病協会岐阜県支部総会および講演会が予定されております。予定を空けておいてください。(会場の都合により参加者多数の場合には抽選とするかもしれません)。

「さかえ」のP 62で紹介されております《1型糖尿病患者さん用のIDカード》ですが、ご希望の方は事務局まで連絡下さい。

今月号の「さかえ」では、“インスリン生活50年(P 10)”が一番心に残りました。半世紀の間インスリンを毎日注射するなかで自分の生活を営まれてきた、二人の方の生活史には学ぶものが沢山あります。現代では家庭での測定も当たり前となった血糖測定器、50年前には小病院でも血糖値が測ることが出来なかったんですね。インスリンも冷蔵庫から出してきて自分で注射器に吸って打つタイプ、中学生までは母親に打ってもらっていたのも納得です。完全な人間ではありませんって書いてありましたが、ご苦労は計り知れません。“読者のひろば(P 58)”では、さまざまな糖尿病の方が毎月体験を記しておられます。“1型糖尿病とゆかいな仲間たち(P 53)”では、ヘモグロビンA1cを下げたいと思っている人は、まずは友人を作りましょう!との意見。

確かに、人間は弱いものだと思います。大人になって弱さを見せなくしていることもあります。『敵は本能にあり(P 64)』はその通りです。『人間だもの』って言葉もありますが、ひとりで本能とかと戦っておられずに、友の会などを通して(時間がなければさかえを通して)共有・共感していきましょう。